

日本経営論	教 授 谷崎 敏昭
-------	-----------

1. 授業のねらい・概要

日本の企業は戦後、それまでの技術的基盤やアメリカによる援助のもと、高度経済成長戦略によって 飛躍的に発展した。発展の過程で日本の企業は日本的なシステムを構築し、欧米企業の経営手法とは異なる方法で経営を行ってきた。形式上は欧米企業と同じ株式会社制度を持っているが、日本の株式会社制度に対する理念や哲学はかなり異なっている。日本の産業別に、その経営の特質を探ることが、この講義の目的である。

2. 授業の進め方

授業は講義方式で行い、必要に応じてレポートの提出を指示する。

3. 授業計画

1. 日本経営論について (日本的経営)	9. 日本の小売業
2. 官僚制と日本社会	10. 日本の農業経営
3. グローバル化の本質と展望	11. 日本の海洋・航空産業)
4. 日本の研究開発	12. 日本のホスピタリティー産業
5. 日本のものづくり (工作機械)	13. 地場産業の経営
6. 日本の金融業	14. 少子化と産業の合理化
7. 日本の流通業	15. 日本経営論の課題
8. 日本の製造業	

4. 到達目標

企業がめざしてきた普遍的な日本的経営について理解すると共に、日本の産業の実態を明らかにする。大学卒業後に社会で働く学生にとって、企業にかかわる知識を得ることや、変わりゆく日本の企業社会を理解することはたいへん重要なことである。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

授業のための下調べをすることと同時に自分の問題意識を高め、何が知りたいのか、何が問題なのか、そして管理について、どうあるべきなのか考えることが重要である。

6. 成績評価の方法・基準

期末試験 70%とレポート 30%で評価する。期末試験は論述形式で出題するので、論文・レポートの書き方について 学習しておくこと。

7. テキスト・参考文献

あとで指示する。

8. 受講上の留意事項

試験ではノートの持込を許可するので、しっかりとまとめておくこと。